

## 認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成26年5月  
田辺市（和歌山県）

### 全体総括

○計画期間：平成21年3月～平成26年3月（5年1ヶ月）

#### 1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

認定された基本計画に基づき、活性化のテーマを「都市機能の向上と、自然と歴史を生かした街づくり」と位置付け、交流人口と居住人口の確保を目標として各事業を推進したところ、居住人口は緩やかな右肩下がりになっているものの、歩行者・自転車の通行量が増加するとともに、基本計画の認定を契機として、多くの若手がまちづくりに参画するなど、賑わいが創出された。

特に、銀座商店街の中央の道路沿いにある月極駐車場であった場所に、複合商業施設（ぼぼら銀座）を整備したことにより、今まで少なかった若者や子育て世代が行き交うようになり、集客と回遊の拠点としての機能を果たしている。また、田辺市商店街振興組合連合会が実施主体となって開催している「Nankiたなべ 100円商店街」や若手の店主等が主になって組織化して取り組んでいる田辺のまちゼミ「まなべる」、まちづくり会社である南紀みらい（株）の若手協力団体が実行委員会を組織して運営している「南紀田辺☆うめえバル」などが定着するなど、中心市街地の商店と関係団体等に一体感と活気が出てきた。

なお、商店街内の空き店舗は増加傾向にあるものの、各種事業の効果により、一定の歯止めがかかっている状況である。

#### 2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

##### 【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した
- ②順調に進捗したとはいえない

##### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

##### 【詳細を記載】

基本計画に記載している62事業のうち、完了・継続中の事業は59事業で、未着手は3事業であるため、概ね順調に進捗・完了したといえる。未着手となった「JR紀伊田辺駅方面へのアクセス道路の整

備」、「三栖口市有地活用事業」、「産直販売所設置事業」の3事業については、関連する他の事業の状況等を確認しながら、今後検討することとしている。

まちなかの居住者は減少している状況にあるが、40歳未満の世代の居住率は横ばいを維持しており、上記「1」のとおり、まちなかには徐々に活気が出てきつつあるため、基本計画に基づいて官民が連携して取り組んできた各事業の成果が出てきているものと考ええる。

### 3. 活性化が図られた要因(田辺市としての見解)

基本計画の認定当初は56事業であったが、活性化に向けた効果が高いと判断した6事業を追加し、順調に進捗・完了したことにより、大きな効果が発揮されている。

主なものとしては、遊休公共施設を障害者等の就労を支援する施設(店舗)に再生した「障害者福祉施設等整備事業」、民間の遊休不動産を一棟貸しの宿泊施設に整備した「空き家再生等推進事業」などは、周辺住民のみならず、外国人を含めた観光客にも多く利用されており、好評を得ているところである。

また、従来から懸案となっていた老朽化した図書館と歴史民俗資料館の移転整備が完了し、平成24年2月4日にオープンした田辺市文化交流センター(たなべる)では、旧館の約4倍の来館者があり、当初の目標であった3倍の来館者数を大きく上回っている。加えて、JR紀伊田辺駅横に観光センターを建築し、田辺市を訪れる観光客のみならず、全ての来館者に対して、市街地の魅力あるスポット等の案内をすることにより、街なかの回遊性の向上に繋がっている。

このように、ハード整備のみで終わることなく、民間の意見を取り入れながら、ソフト事業の展開を視野に入れた検討を重ねてきたことは有効であった。

### 4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

#### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

#### 【詳細を記載】

田辺市中心市街地活性化協議会は、田辺商工会議所が事務局となり、商工会議所、まちづくり会社、商店街関係者、行政等のメンバーを委員として平成19年度に設置し、これまで21回、検討課題についての協議を重ねてきた。計画に位置付けられた事業は概ね順調に進捗したものと考え、計画には記載されていないが、計画の認定を契機として始まった「Nanki 田辺 100円商店街」や「田辺のまちゼミ(まなべる)」などの民間主導の新たな事業が動き出したことは大きな成果であったと考える。

目標数値については、交流人口は達成できたが、居住人口は達成できなかったことから、今後も関係機関が一体となって居住人口の増加に向けた取組を進めるとともに、引き続き交流人口の増加にも取り組みながら、更なる中心市街地の活性化を目指していきたい。

### 5. 市民意識の変化

#### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

**【詳細を記載】**

市民アンケート調査において、「中心市街地活性化基本計画策定前と比較して、中心市街地が変わったと思いますか」との設問には、「良い方向に変わった」と回答した方が約3割いた一方、「分からない」との回答が半数近くあったことから、取り組んできた事業の成果は少しずつ現れてきているものの、今後もより一層活性化に資する取組を継続する必要があると考えられる。

商店経営者アンケート調査において、街歩きマップの作成や南紀田辺☆うめえバルなどの賑わい創出事業に対する評価では、約5割の方から「効果がある」との回答を得ていることから、今後も引き続き、ソフト事業を継続する必要があると考える。

**【田辺市民アンケート調査】**

調査日：平成25年11月15日～30日

調査方法：田辺市在住の15歳以上80歳未満の1,000人を無作為抽出し、アンケートを郵送

有効サンプル数：340人 回収率 34%

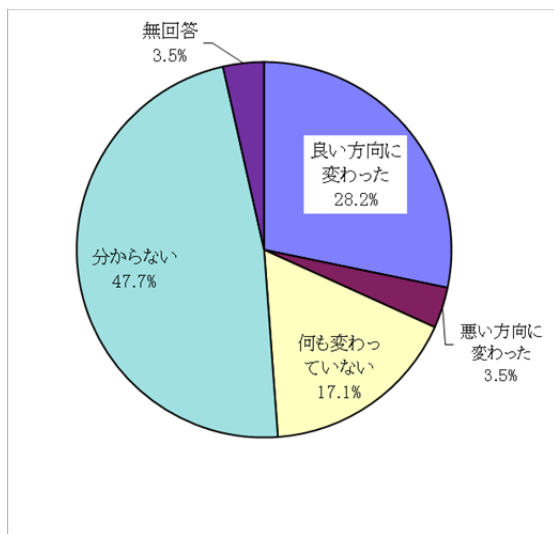
**【田辺市商店経営者アンケート調査】**

調査日：平成25年11月21日～30日

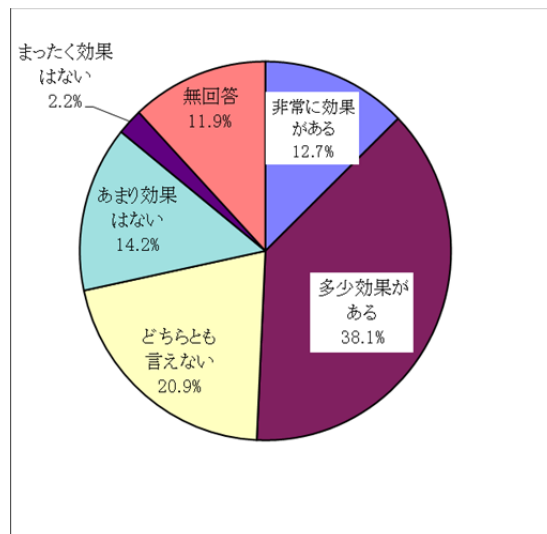
調査方法：田辺市商店街振興組合連合会の役員が会員268人に配布

有効サンプル数：134人 回収率 50%

◎中心市街地活性化基本計画策定前と今との比較  
(田辺市民アンケート調査より)



◎各事業の成果(街歩きマップ・うめえバルの開催)  
(田辺市商店経営者アンケート調査より)



**6. 今後の取組**

田辺市民アンケート及び田辺市商店経営者アンケートの調査結果では、これまで取り組んできた中心市街地の活性化に向けた各事業について、ほぼ半数は「効果があった」と回答している。このことは、懸案事項であったJR紀伊田辺駅前広場の改修、田辺市観光センターの整備、田辺市文化交流センターの建設を初め、基本計画が契機となった新たな取組である、古民家を一棟貸しの宿泊施設に再生した「空き家再生等推進事業」、遊休公共施設を特定非営利活動法人が再生させた「障害者福祉施設等整備事業」、まちづくりのボランティアグループである「あがら☆たなべえ調査隊」による田辺の魅力の発信及び街なかの賑わいを創出する数々のイベント、更には、100円商店街やまちゼミなど、基本計画に記載していない事業も含め、様々な取組が中心市街地を舞台として開催されてきたことが評価されたものと考えられる。しかし、市民アンケート調査の「中心市街地活性化基本計画策定前と比較して、中心市街地が変わったと思いますか」との設問では、「分からない」との回答が半数近くあったことから、今後もより一層活性化に資する取組が必要である。これまでのハード整備を生かした、市街地の回遊性を高めるソフト事業を積極的に展開し、継続・発展させていくことが重要であると考えられる。

基本計画の期間は終了したが、中心市街地の活性化はこれで終了するものではなく、5年1ヶ月の期間で得ることができた人と人との繋がりを生かして、これまで取り組んできた基本計画の理念を継承するものとし、今後も交流人口と居住人口の増加に向けた取組を推進していく。田辺市中心市街地活性化協議会についても、今後の中心市街地活性化に関する諸課題を検討し、提言する機関として、計画期間終了後も引き続き継続することになっている。

本市では、平成26年度に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」が登録10周年を迎え、平成27年度には紀の国わかやま国体が開催されるなど、当地域が国内外から注目される機会が訪れることから、こうした絶好の機会を捉えつつ、これまで実施してきた成果を更に発展させていくこととする。

## (参考)

### 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
歩行者・自転車通行量	中心市街地5 地点の歩行者・ 自転車通行量 (休日)	2,842 (H20)	3,200 (H25)	3,520	H25. 8	A
居住人口	中心市街地の 居住人口	11,312 (H19)	11,345 (H25)	10,103	H26. 3	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)  
a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)  
 B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)  
b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)  
 C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)  
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

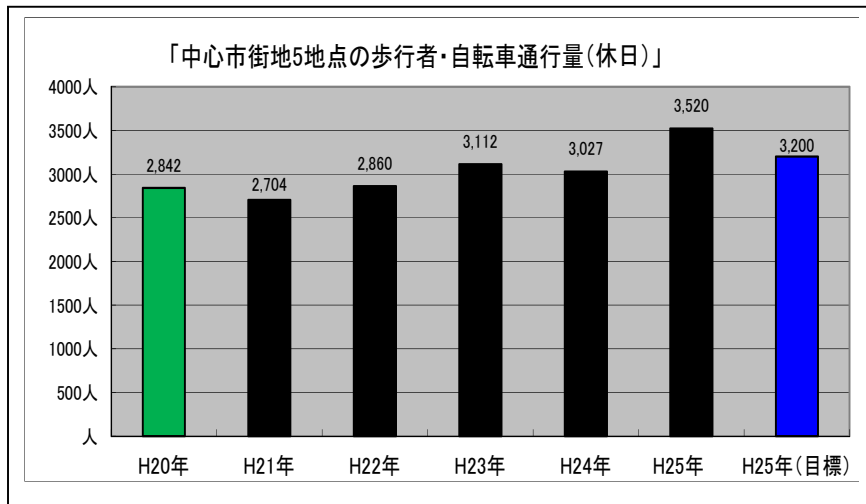
## 個別目標

目標「(街なか環境の整備や商業機能の再構築による賑わいの創出)」

「中心市街地5地点の歩行者・自転車通行量(休日)」

※目標設定の考え方は、基本計画 P66～P70 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位)
H20	2,842 (基準年値)
H21	2,704
H22	2,860
H23	3,112
H24	3,027
H25	3,520
H25	3,200 (目標)

※調査方法；各調査地点における2方向別に、歩行者・自転車の通行量を通行形態別に1時間毎に集計

※調査月；平成25年8月実施、同月取りまとめ

※調査主体；田辺商工会議所、田辺市

※調査対象；休日(5地点)の歩行者・自転車通行量

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

#### ①. 海蔵寺地区土地区画整理事業(田辺市)

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成14年度～平成21年度【済】
事業概要	市街地を東西に貫通する幹線道路として整備(施工面積1.49ha) 幅員4m余りの道幅を18mに拡幅(歩道含む) L=280m
目標値・最新値	目標値640人・最新値859人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	平成22年3月末から供用を開始しており、本事業により海蔵寺通りの一方通行が解消され、駅前商店街から海蔵寺通りを経て銀座商店街までの歩道が接続したことにより、安心して街歩きや買物ができる空間が確保できた。
計画終了後の状況(事業効果)	通行量は増え、賑わいを取り戻しつつあるが、今後は民間のノウハウを活用し、歩道空間を生かしたソフト事業を展開するなど、活性化が図られるような仕組みづくりが必要。
海蔵寺地区沿道区画整理型街路	実施済み

事業の今後について	
-----------	--

②. 銀座複合施設整備事業（南紀みらい（株））

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 平成22年度～平成23年度
事業開始・完了時期	平成22年度～平成23年度【済】
事業概要	商店街の賑わいの創出の拠点施設として設置運営 敷地面積 320 m <sup>2</sup> 鉄骨一部木造2階建て 建築面積約 200 m <sup>2</sup> (1階 ベーカリー、カフェ、グリーン雑貨、2階 ウェディングサロン、ネイルサロン)
目標値・最新値	目標値 44 人・最新値 36 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	施設の利用者は当初想定より増加しているが、自家用車での来店者が多く、徒歩、自転車での来店が少なかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 22 年 11 月 25 日にオープンして以来、来客数は一定確保できており、また、この施設を訪れる若者や子育て世代などの新たな客層が、商店街内の他の商店にも来店するようになり、エリアとして賑わいが創出され、良い影響が出ている。
銀座複合施設整備事業の今後について	実施済み

③. J A 紀南支所機能再編整備事業（紀南農業協同組合）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成20年度～平成21年度【済】
事業概要	JA紀南が3支所(田辺・東部・元町)を統合し、海蔵寺通りに新たに田辺支所を建設 鉄骨2階建て 敷地面積 1,149 m <sup>2</sup> 延床面積 498 m <sup>2</sup> 駐車場 26 台 1階 事務所・キャッシュコーナー、相談室 2階 会議室
目標値・最新値	目標値 200 人・最新値 253 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	海蔵寺地区土地地区画整理事業により海蔵寺通りの利便性が向上するとともに、移転オープンについての積極的な広報活動によって来店者が増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	南紀みらい(株)が実施するイベント時には、会議や準備などを行う際の施設として提供していただいております、自らもイベントに出店するなど、まちづくり関係団体との連携が活発になっている。

J A 紀南支所機能再編整備事業の今後について	実施済み
-------------------------	------

④. 複合文化施設建設事業（田辺市）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成21年度～平成23年度【済】
事業概要	図書館と歴史民俗資料館の機能を併せた田辺市文化交流センター「たなべる」が平成 24 年2月4日にオープン 鉄骨2階建て 敷地面積 8,577 m <sup>2</sup> 延床面積 3,337 m <sup>2</sup> 駐車場 85 台分 駐輪場 約 200 台
目標値・最新値	目標値 77 人・最新値 83 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	新たな文化施設と市民広場が完成したことにより、オープン以来、多くの来客で賑わっている。図書の貸し出しだけでなく、交流ホールにおいて、図書館利用者の作品展示を企画する等の取組が効果を上げている。
計画終了後の状況（事業効果）	利用者は当初の見込みよりも大幅に増加するとともに、交流ホールの活用が活発に行われており、周辺の通行量は増加している。
複合文化施設建設事業の今後について	実施済み

⑤. 産直販売所設置事業（農業法人（株）きてら）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成21年度～【未】
事業概要	中心市街地の空き店舗に農産物の直売所を運営する「きてら」を商店街内の空き店舗に誘致
目標値・最新値	目標値 60 人・最新値一人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	現在も誘致すべく交渉中であるが、立地や家賃などの面で難航中。
計画終了後の状況（事業効果）	誘致に向けた交渉は難航中であるが、実施主体は違うものの、商店街の空き店舗に三川地区（旧大塔村の山間地域）の住民で組織する団体が平成 22 年7月 25 日に産直店をオープン。高齢者の集いの場としての機能を有しているとともに、薫草履作り教室等を月に一度開催する等、街なかの賑わいの創出に寄与している。

産直販売所設置事業の今後について	今後も協議を継続する予定。
------------------	---------------

⑥. 海蔵寺一時預かり駐車場整備事業（海蔵寺）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成23年度【済】
事業概要	中心市街地では駐車場が不足しているため、海蔵寺通りの開通に併せて一時預かり駐車場を整備することにより、海蔵寺商店街並びに中心市街地の魅力と利便性の向上を図る。
目標値・最新値	目標値 68 人・最新値 104 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	海蔵寺通りの商店街の空き店舗に三川地区（旧大塔村の山間地域）が平成 22 年 7 月 25 日に中心市街地の空き店舗を活用して産直店をオープン。高齢者の集いの場としての機能を有しているとともに、藁草履作り教室等を月に一度開催する等、街なかの賑わいの創出に寄与しているが、海蔵寺では、この産直店への来店者の一時駐車や地域のイベントの参加者に対しての利用を認めている。
計画終了後の状況（事業効果）	現状においても、一時預かり駐車場としての機能を果たしている。
海蔵寺一時預かり駐車場整備事業の今後について	実施済み

⑦. JR紀伊田辺駅前広場改修事業（田辺市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画) 平成21年度～平成24年度
事業開始・完了時期	平成21年度～平成24年度【済】
事業概要	既存のJR紀伊田辺駅前広場の全面改修 舗装工 4,325 m <sup>2</sup> シェルター(屋根付歩道)L=170m H=2.5m
目標値・最新値	目標値 1,067 人・最新値 919 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	駅前広場の完成が当初、平成 25 年 3 月末を予定していたが、平成 25 年 9 月オープンとなったこと、マイカー利用者増加によりバス利用者が減少したため。



計画終了後の状況（事業効果）	通行量は若干減少しているものの、駅利用者の利便性の向上が図られるとともに、駅前商店街が実施中の街中ふれあい事業（ギャラリーやチャレンジショップとしての機能を併せ持つ多目的スペースの運営）などのソフト事業が活発になっている。
J R 紀伊田辺駅前広場改修事業の今後について	実施済み

⑧. 紀伊田辺駅前広場第二駐車場の利用促進事業（田辺市）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成23年度～平成25年度【実施中】
事業概要	JR紀伊田辺駅前広場改修事業に併せ、現行の30分100円から最初の30分を無料へ見直すことにより、利用促進を図る。
目標値・最新値	目標値 208 人・最新値 378 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	駅前広場が完成し、最初の30分を無料へ見直したことにより、予想以上に駐車場の利用が促進された。
計画終了後の状況（事業効果）	本駐車場を利用しやすくなったことにより、JR紀伊田辺駅前広場の混雑が解消されるとともに、中心市街地への来訪者が増加している。
紀伊田辺駅前広場第二駐車場の利用促進事業の今後について	今後も同じ料金体系を継続する。

⑨. J R 紀伊田辺駅ビジターセンター整備事業（高次都市施設）（田辺市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画） 平成23年度～平成24年度
事業開始・完了時期	平成23年度～平成24年度【済】
事業概要	本市の玄関口であるJR紀伊田辺駅前にビジターセンターを建設し、観光客等の来訪者に対する案内機能の充実を図る。鉄筋コンクリート造2階建約250㎡ 総合案内、交流スペース、展示スペース、公衆便所ほか
目標値・最新値	目標値 42 人・最新値 60 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	当初の予定通り、来館者数は増加し、中心市街地関連の案内数も併せて増加した。
計画終了後の状況	紀中・紀南地域全体の観光情報を発信するとともに、商店街が取り組んで

況（事業効果）	いる事業や地域のイベント等の発信にも努めているため、通行量が増加傾向にある。
J R 紀伊田辺駅 ビクターセンター 整備事業の今後について	実施済み

### 3.今後について

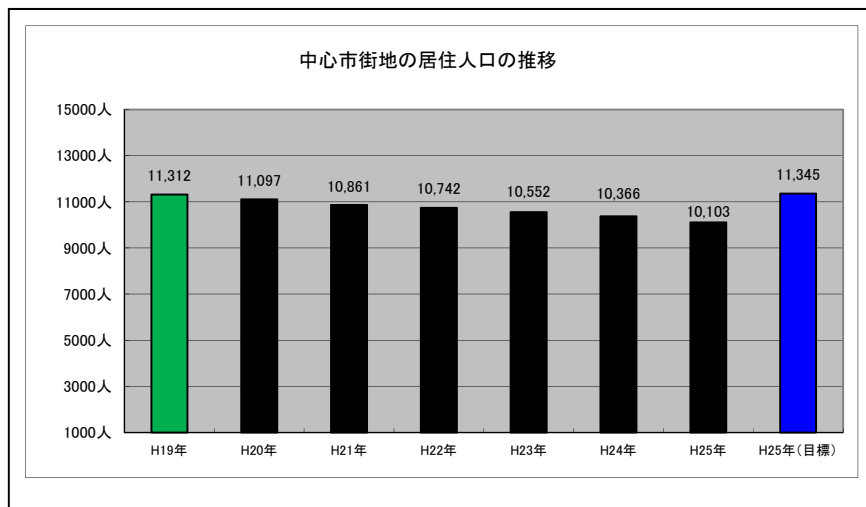
平成 22 年 11 月には、民間の中核事業として位置付けていた銀座複合施設整備（ぼぼら銀座）が完成するとともに、公共事業としては、長年の課題であった旧図書館の移転整備が完了し、平成 24 年2月には田辺市文化交流センター「たなべる」がオープンした。更には、平成 25 年9月に駅前広場の改修と田辺市観光センターがオープンするなど、民間と公共の柱となるべき事業が予定通り完了したことに加え、ソフト事業として、南紀みらい(株)や商店街組織等が自主運営を意識したイベントや活性化事業を企画立案し、円滑に遂行できているところである。今後も既存の必要な事業は継続し、活性化に有効と考えられる新規事業については、費用対効果等を十分に検討するなかで自主運営が可能なものについては、官民連携を図りながら展開していく。

## 個別目標

目標「(都市基盤の推進による街なか居住の促進)」

「中心市街地の居住人口」 ※目標設定の考え方は、基本計画 P71～P73 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位)
H19	11,312 (基準年値)
H20	11,097
H21	10,861
H22	10,742
H23	10,552
H24	10,366
H25	10,103
H25	11,345 (目標値)

※調査方法；中心市街地区域での住民基本台帳登録人口

※調査月；平成 26 年 3 月末時点調査、4 月とりまとめ

※調査主体；田辺市

※調査対象；中心市街地内居住者

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

#### ①. 中心市街地家賃補助事業（地域創造支援事業）（田辺市）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画) 平成21年度～平成25年度
事業開始・完了 時期	平成21年度～平成25年度【実施中】
事業概要	中心市街地への人口流入の促進と子育て支援の観点から、民間賃貸住宅の借借人に対して、家賃補助を行う。月額補助金額 初年度 30 千円、2年目 25 千円、3年目 20 千円、4年目 15 千円、5年目 10 千円
目標値・最新値	目標値 400 人・最新値 101 人
達成状況	未達成
達成した（出来 なかった）理由	相談件数は多いものの、若い世代が求める物件が郊外のものと比較すると少なかった。
計画終了後の状 況（事業効果）	目標値には達しなかったが、制度利用者には市外からの転入者や子育て世代が多く、また継続して居住している世帯も多くあることから、中心市街地への人口流入の促進と子育て支援に一定の効果があった。
中心市街地家賃 補助事業の今後 について	計画期間中の認定分までは、継続するとともに、公営住宅への入居申し込みや相談等がある際には、中心市街地の民間賃貸住宅の情報提供を行う。

②. 街なか住み替え支援事業（田辺市（南紀みらい（株）に委託して実施）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画) 平成21年度～平成25年度
事業開始・完了 時期	平成21年度～平成25年度【実施中】
事業概要	現在の不動産市場に現れていない賃貸可能な空き店舗、空き家を調査（掘り起こし）し、広く情報提供を行う。
目標値・最新値	目標値 60 人・最新値 75 人
達成状況	達成
達成した（出来 なかった）理由	不動産情報の提供に加え、中心市街地家賃補助事業の効果もあり、利便性の高い中心市街地へ住み替えに繋がったものと考えられる。
計画終了後の状 況（事業効果）	中心市街地に特化した不動産情報をインターネットで閲覧できるようにしたことにより、情報の入手が容易になり、日常生活における利便性が高い中心市街地での居住を求める人々の住み替えを誘引している。
街なか住み替え 支援事業の今後 について	今後も不動産情報の提供を含め、居住人口の増加に向けた施策を検討していく。

③. 銀座複合施設整備事業（日高建設（株）

支援措置名及び 支援期間	
事業開始・完了 時期	平成21年度～平成23年度【済】
事業概要	商業施設（ぼぼら銀座）と併せて共同住宅を整備するものであり、民間企業での施工及び運用となっている。
目標値・最新値	目標値 24 人・最新値 24 人
達成状況	達成
達成した（出来 なかった）理由	周辺に魅力ある商店が多く立地する等、利便性も高いエリアに建設されているため、入居が促進されたものと考えられる。
計画終了後の状 況（事業効果）	利便性が高いエリアに建設されているため、今後も居住人口及び交流人口の増加に寄与するものと考えている。
銀座複合施設整 備事業の今後に ついて	実施済み

④. 民間賃貸住宅建設費補助事業（和歌山県）

支援措置名及び 支援期間	
-----------------	--

事業開始・完了時期	平成21年度～平成25年度【実施中】
事業概要	和歌山県地域優良賃貸住宅整備事業を活用し、中心市街地エリアでの住宅建設に補助を行うことにより、良質な住宅の提供を促すとともに、中心市街地における住環境の整備と居住人口の増加を図る。
目標値・最新値	目標値 24 人・最新値 24 人(最新値は、③銀座複合施設整備事業の最新値と重複。)
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	銀座複合施設整備事業は、当該事業を活用して整備されたものであるが、当該物件以外では活用されることはなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	銀座複合施設が完成したことにより、居住人口及び交流人口が増加し、徐々にではあるが、賑わいが戻りつつある。
民間賃貸住宅建設費補助事業の今後について	県制度ではあるが、今後も民間事業者と連携を図りながら制度の周知に努める。

⑤. 三栖口市有地活用事業（田辺市）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成23年度～平成25年度【未】
事業概要	三栖口JR宿舎跡地の市有地(約 4,050 m <sup>2</sup> )を居住増進のための用地として活用し、市街地での居住促進を図る。
目標値・最新値	目標値 46 人・最新値 一人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	当初は市営住宅の建設を検討したが、他の地域で候補地が見つかったため、事業化を断念した。
計画終了後の状況（事業効果）	全体の交流人口は減少しなかった。
三栖口市有地活用事業の今後について	民間事業者から、共同住宅の建設に係る申し出があれば、協議に応じる。

3.今後について

人口減少に歯止めをかけ、各事業を推進することにより、人口を増加させる目標を立てたが、結果としては目標数値を達成することができなかった。

本計画に記載されている基盤整備事業や活性化のためのソフト事業により、中心市街地エリアの利便性や魅力は向上してきていると考えられる。引き続き交流人口の増加を目指し、それを居住人口の増加に繋げていかなければならない。そのためには、これまでの取組を総括し、今後の方向性を見出す作業が必要となるため、田辺市中心市街地活性化協議会内に若手のワーキンググループを発足させ、中心

市街地活性化に資する事業を検討し、提言する機会を確保していく予定となっている。市においては、協議会及びワーキンググループからの意見を聴取しながら、総合的な施策の体系化を図り、更なる中心市街地の活性化を目指していくこととする。